

西オーストラリアの養蜂と 第8回アジア養蜂研究協会大会の開催

第8回アジア養蜂研究協会大会委員会

西オーストラリア (Western Australia, WA) 州は日本の国土の 6.7 倍、面積約 250 万 km² のオーストラリア最大の州 (図 1) である。その州都パース (Perth) は、湖のように広がるスワン川を見渡す場所に位置し、1970 年代の金や鉱物の採掘で発展を遂げた比較的新しい街である。近代的な高層ビルと 19 世紀開拓時代の面影が混在する「世界で最も清潔な街」、また平均日照時間が 1 日 8 時間と「オーストラリアで最も天気の良い街」ともいわれる。

パースは西オーストラリア州の政治、行政の心臓部であり、芸術、産業、政治および娯楽の中心である。訪れる方は、この都市が清潔で、歩き回りやすいことに気づくだろう。文化センターには、州立図書館、博物館、美術館が集まり、多くの人に親しまれている。市の中心部に隣接するキングス・パークと植物園には自然がそのまま残る。400 ha もある園内の小高い丘からパース市街と蛇行するスワン川の絶景が楽しめる。市内中心部の公共交通機関は無料である。非常に便利な CAT バスサービスは、東西南北の定められたルートで運行し、

旅行者が乗車地点まで帰りつけることを保証している。二つの大きなバスターミナルと鉄道の中央駅からは、パースの郊外地域への公共交通機関利用ができる。素晴らしいショッピング街、河岸に並ぶたくさんのレストランとカフェ、世界レベルのゴルフコース、美しいスワン川と、80 km 以上に及ぶ清らかな白砂の川岸、そして好天のもとの野外活動が皆様をお迎える。

パースから 20 km、スワン川がインド洋に注ぐ河口にあるフリーマントル (地元ではフレオと呼ばれる) は豊富な海事的伝統をもち、旅行者を引きつける魅力的な目的地である。フリーマントルの西端、ノートル・ダム大学周辺は、世界でも最も手を加えられずに残る、19 世紀ビクトリア朝風な港湾都市と見なされている。

西オーストラリア州南西部には有名なマーガレット川沿いのワイン地帯が広がる。その周辺は探検しがいのある広大な森林と荒々しい海岸線をもつ、西オーストラリア州で最も壮観な自然風景である。

パースから約 2,000 km 離れた、北部の熱帯地域は、その奥地の荒野の壮観さで有名になっ



図 1 西オーストラリア州とパース市周辺図

た。息をのむような峡谷，流れ落ちる滝，原始のままの海岸，美しい珊瑚礁を経験しよう。驚異の自然風景と古代アボリジニの岩絵を見よう。シャーク湾世界遺産地域やニンガルー海洋公園では，一級の探検・エコツーリズムが体験できる。

西オーストラリアの養蜂産業

初期の記録から近年まで

オーストラリアの初期の移民は，過酷な開拓作業に従事する自分たちに必要なだけの，甘味を輸入することが難しかった。そこで彼らはオーストラリアの森林もミツバチを育めるかもしれないと考え，自分たちの土地にヨーロッパのミツバチを導入することを試みた。多くがイギリス出身であった移民達が，祖国でなじみがあったセイヨウミツバチをオーストラリアへ持ち込もうと思ったのはごく自然なことである。

海路を数千 km 以上，帆船に積んで蜂群を運ぶことは難しく，多くの試みと失望が繰り返された。しかしついに多くの困難は克服され，ミツバチは最初に東オーストラリアに，その後 1840 年代初期になって，西部オーストラリアにも定着した。

パースで発行されていた *Inquirer* 紙の 1846 年 11 月 11 日付の紙面に，ヘルプマン少尉が成功裏に飼養していた蜂群が分蜂したこと，またその群は注意深く捕らえられ，巣箱に入れられたことを報じる記事が残っている。また故ジェス・ハモンド氏はその著書「西部の開拓者達」の中で，ギルドフォードに住む彼のおじ，ウィリアム・ジョーンズ氏が 1873 年にそこに広大な養蜂場を持っていたと述べている。

いったん数群のミツバチが定着するや，養蜂はオーストラリアの国中に広まっていった。1881 年 1 月 12 日の新聞記事は，3 ガロン (13.6 L) のハチミツが西オーストラリア，ピクトリアプレーンズ地区にある「ミツバチの木」からとれたことに触れており，同じ年の後半，9 月 6 日にはスワン川（パース市はその川沿いに発展）のハチミツ 16 ケースがロンドンの市場で販売されたとの報告が掲載されている。

養蜂産業は，19 世紀最後の 10 年間に着々と発展した。南オーストラリア，ヨーク半島出身のスミス兄弟が自分たちの蜂を西オーストラリアに持ち込み，グレン森林地帯のベーカーズヒルに拠点を置いた。蜂場から蜂場へ群を移動させるのに馬車を使っていたので，彼らはおそらく西オーストラリア州最初の移動養蜂家だった。後に彼らから蜂を買い取ったヨークのマクナマラ兄弟は，大規模なハチミツ製造業者として仕事を続けた。ニューサウスウェールズで早くから養蜂の経験を積んでいた従兄同士の 2 人のクック氏は，スミス兄弟のもとで働き，後に独立してエイボン谷のトゥーディエイに自分たちの養蜂場を築いた。

1896 年に調査された最初の養蜂統計によれば，州内の 2267 個の巣箱から約 38t のハチミツが産出されていた。最初に豪州に導入されたミツバチは北ヨーロッパ系の *Apis mellifera mellifera* であったが，1880 年代にハチノスツヅリガによるものと思われる深刻な群の減少を経験した後，新たにイタリア系の *A. m. ligustica* も導入された。これは最も一般的に用いられるミツバチ系統である。しかし何年にもわたってイタリアからの導入がわずかな数だったため，国内のミツバチの品質は低下した。

その後，養蜂産業は 1930 年代初頭まであまり変化がないままであったが，1934 年から，巣箱が 50% も増加し始めた。1936 年には，約 16,000 個の巣箱からハチミツ 450 t 以上を産出，平均 28 kg / 巣箱にもなった。

その後，再びほとんど変化のない時期が第二



図2 有機ハチミツを生産する蜂場

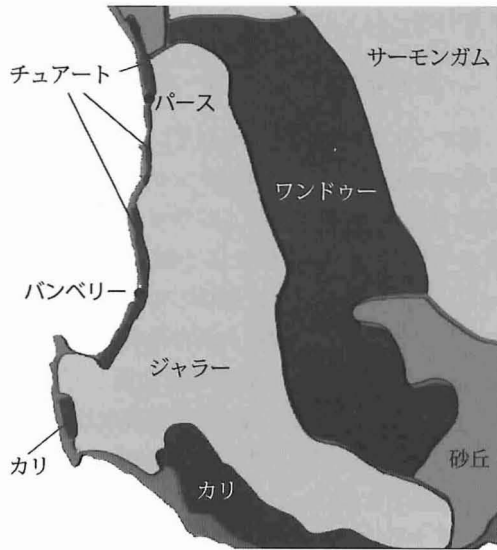


図3 州南西部の主要蜜源樹木の分布

次世界大戦の終わりでまで続いた。戦後の養蜂産業は安定した成長をつづけ、1977年にはハチミツ生産用蜂群は32,000群、巣箱当たり平均76kgのハチミツを生産するようになった。

1977年以降、養蜂家の数はかなり安定し、200以上の巣箱を持つ専業養蜂家は75名程度である。一方、蜂群数は1965年以降減少している。これは主に、経済的に厳しい状況と、土地開拓による蜜源植物の減少が原因とみられる。

現在の養蜂事情

現在、西オーストラリア州では、およそ4万群から3,200tのハチミツが生産され、その40%が輸出される。900人の養蜂家が登録されており、その多くは200群未満の蜂群を管理する趣味かパートタイムの養蜂家である。70人ほどいる専業養蜂家の典型的なイメージとは、一家族が、400群以上の蜂群を所有して働いているというものだろう。500～1500群、あるいはそれ以上の群を管理する、より大きなグループもある(図2)。

ほとんどの養蜂企業は移動養蜂を行う。西オーストラリア州の広大な南西地方各地で多様な花を咲かせる植物相の間を移動させる。それによってハチミツ生産のための花蜜や、育児に必要なタンパク源となる花粉を継続的に得ている。大規模養蜂家は多量のハチミツを効率的に



図4 カリは西オーストラリアだけでなく世界でも最も高く伸びる樹木で、100年ほどで90mに達する

取り扱うために、巣房の蓋を取り除くステンレス製の機械や、水平レーザー式抽出機といった近代的なハチミツ処理設備を持っている。

養蜂適地、蜜源植物と有機ハチミツ

養蜂場の分布は、そのまま州内の養蜂に適した6つの蜜源地帯を示している(図1, 3)。

- 1) パースからジェラルトンに至る地域。養蜂家は多様な花蜜、花粉源植物に着目している。
- 2) より東方の、パインズファインドからニンガン・ステーションに至る地域。ヨークガム *Eucalyptus loxophleba* が特筆に値する。
- 3) 東部の金鉱地域。多種のユーカリが分布。
- 4) パースの南からバンベリーに至る広大な森林地帯。多様なユーカリ、バンクシア、アゴニス、メラレウカなどがある。
- 5) バンベリーから南西のウォルポール方面へ広がる地域。ユーカリやバンクシアに加えて、独特のカリ *E. diversicolor* (図4) の森が含まれる。
- 6) オルバニーからエスペランスに至る南海岸地域。ここでも期待されている植物はユーカリとバンクシアである。

西オーストラリアの私たちの生産するハチミツの中で特に高品質なものは主に、南部と西部の海岸沿いのユーカリ林にあるジャラー *E. marginata* (図5左) やレッドガム *E.*

camaldulensis の木から採取される。ジャラーハチミツは暗色系で濃厚な味の、栄養価の高いハチミツで、けがの治療薬として知られ、その高い抗細菌作用が知られている。内陸部では、多様なマリーユーカリ *Corymbia calophylla* (図6) や野生の花からとれるより明るい色のハチミツが産出される。これらは、ヨーロッパ産の最も良質なクローバーハチミツと比べても遜色がない。西オーストラリアのハチミツは特徴のある味と色をもち、すべてが無農薬の有機ハチミツなのである (図2)。

西オーストラリア産のハチミツの大部分は、養蜂家が共同で所有する瓶詰め用施設 Wesco Bee を通して販売される。生産量の約40%が、200 Lのドラム缶で輸出される。残りのものは地元のスーパーの小売店や、大規模な商業企業で販売される。ハチミツの種類としては、ブレンドのものも、バンクシアや野生花、ジャラー、カリ、レッドガムなどユーカリの蜜も販売している。主に州の南西部で、数多くの養蜂家直売店が、様々なハチミツを売り出している。地域のハチミツ価格は、世界的な生産高と、需要・供給によって変動する海外での価格に影響される。そのため、生産者に払われる額はかなり変動が大きく、この差が、利用者の払う商品価格に反映されるのである。

西オーストラリア州の北東部、キンバリー地方を流れるオード川沿いのカナナラ周辺における、メロンを主としたポリネーションも重要である (図1)。州の南西部では果樹園、園芸作物、そして広大なナタネの栽培地でも交配にミツバ

チが利用されている。

養蜂管理体制、育種・蜂病対策

西オーストラリアで使われている巣箱は、そのほとんどが10枚巣枠のラングストロース型巣箱である。浅めのW.S.P.サイズの巣箱も、軽さや管理の簡単さゆえに一部では好まれている。同じ理由で、8枚巣枠の巣箱の需要も少しある。すべての蜂群所有者は政府の規定により、西オーストラリア農業省に登録している。その際に発行される認識番号を養蜂家は自分を持つ全ての巣箱部品 (箱、蓋、巣枠) に明記しなければならない。この規定は、火災の時などに、速やかにミツバチの所有者を見つけ出すことや、蜂病などを調べる養蜂場監察官の参考のために実施されている。

森林地帯における養蜂場の用地は、自然保護・土地管理省によって監督され、厳格な管理方針の下で決定される。

農業省には上級養蜂管理官と、養蜂活動を管理指導する養蜂担当官がいる。研究職の担当官は、州と国それぞれのレベルでの養蜂産業のための価値ある研究を実施している。

西オーストラリア州農業省の養蜂課が実施した人工授精によるミツバチ育種プログラムの進展は、現在養蜂産業で使用しているミツバチを高い品質を保つ手助けとなってきた。1980年にミツバチ育種プログラムが開始されたときに、商業養蜂家は手持ちの中から最も良いハチミツを産出する蜂群を提供した。これらの中で最も優れた女王蜂の娘達が、野生のコロニーが



図5

左) ジャラーは西オーストラリア州を代表する樹木で、春から初夏に開花する。

右) シャゼンムラサキ *Echium plantagineum* の流蜜であふれた巣箱。シャゼンムラサキは家畜には有毒で、荒れた放牧地で繁殖するが、花は良い蜜源となる。

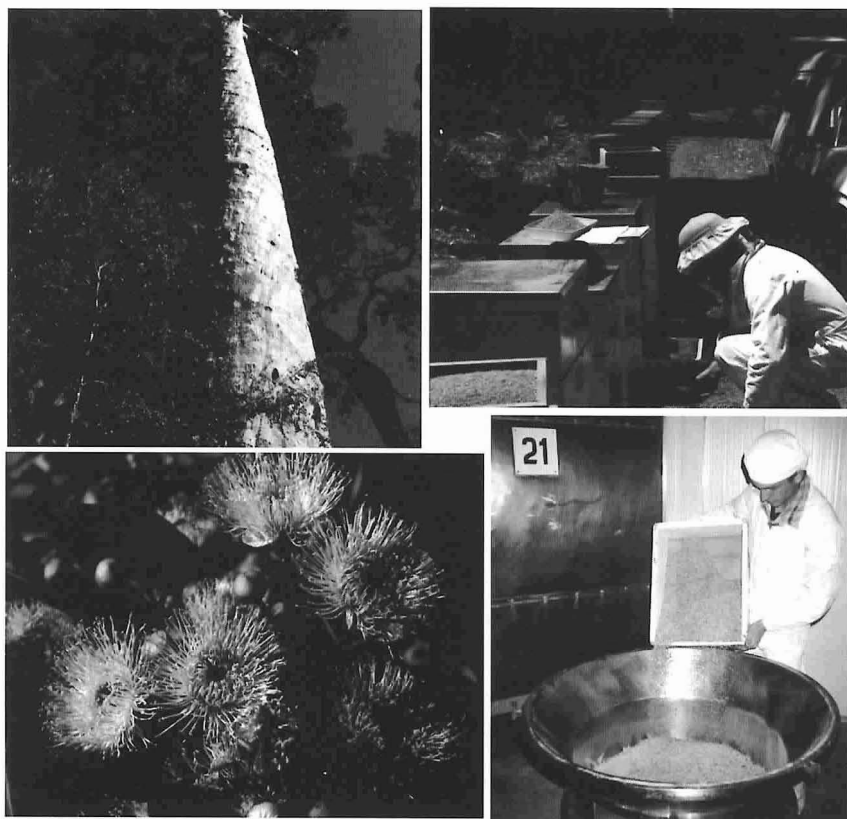


図6 主要蜜源、花粉源としてのマリ

左上) 赤い樹液にタンニンを多く含み、アボリジニは「薬の木」と呼んで利用していた。左下) 乾期である夏の盛りに、開花する白から薄いピンクの花は樹冠を見事に覆う。右上) マリはジャラーやカリの林に広く生育し、養蜂家は、花粉を集めるために、開花に合わせて林内に蜂群を移動する。右下) 花粉荷の乾燥作業。

存在しない、フリーマントル沖合のロットネスト島で選ばれたオスバチと交配された。交配プログラムによって生まれた女王バチは、オーストラリア全土や海外の養蜂家達に売られた。この事業は1991年に西オーストラリア養蜂家協会に売却され、現在養蜂産業の利益のために運営されている。これにより、地元の養蜂家は交配用の蜂が外部から持ち込まれることに伴って外来の蜂の病気が侵入する危険を回避できるようになった。

西オーストラリアにはヨーロッパ腐蝕病やその他経済的に問題のある外来の蜂病や害虫など、ミツバチや園芸産業に対して影響を及ぼしうるものが侵入していない。病害敵の流入を防ぐために、検疫措置が適切に行われている。西オーストラリアの「養蜂業規則 1963 - 1980」によって、ミツバチ・ミツバチ生産

物および養蜂器具、機械の西オーストラリア州内への移入が規制・禁止されている。西オーストラリア州の法律は、オーストラリア連邦の法律に付け加えられるものである。連邦の法律で輸入が許可されたミツバチ生産物および養蜂器具、機械が、西オーストラリアでは州の法律によって搬入禁止される場合もある。

第8回アジア・オーストラリア養蜂会議は、2006年3月20日から24日まで、パースで予定されている。会議のテーマは、「ハチミツを健康な人々のために」、国内外から200名以上が参加する予定である。世界やオーストラリアから講演、科学研究発表がなされ、参加者は周辺関連施設への技術見学・教育的ツアーが利用できる。詳細については次ページ以下のアナウンスメントおよび下記ウェブサイトで。

<http://www.beekeepingwestaus.asn.au>

第8回アジア養蜂協会大会 セカンドアナウンスメント

「Honey
for Healthy
Humans - ハ
チミツを健康
な人々のため
に」をテーマ
に、アジア地
域外で開かれ



大会ロゴ

る初のAAA大会に皆様をお招きする。会議は2006年3月20日～24日にオーストラリア、西オーストラリア州パースで開催される。

美しいスワン川河畔に広がる歴史ある西オーストラリア大学を会場に、基調講演、分科会、見学旅行、ワークショップ、展示会等が行われる。組織委員会は大会の基調講演者としてオーストラリア国立大学のM. V. スリニバサン教授とミネソタ大学のM. スピバック教授をお招きした。わが国はミツバチ研究が活発に進み、多くのミツバチ科学者がアジアと深い繋がりをもつ。西オーストラリアの養蜂家は技術革新の最先端におり、この州は養蜂の楽園である。

今回の会議は、養蜂に係わる多くの情報を得る機会であり、これまでと同様にアジアのミツバチ研究者や養蜂家が科学とビジネスの共同体制を築く素晴らしい機会となるだろう。大会ホームページもどうぞご覧いただきたい。

<http://www.beekeepingwestaus.asn.au/>

大会長 キム・フュースター

会期 2006年3月20日～24日

会場 西オーストラリア大学 クラブハウス

会場はパースの中心商業地区から車で8分の距離、スワン川河畔 Crawley にある。クラブハウスは大学の卒業生や院生、職員のために2005年3月に開設されたばかりである。

基調講演

その1 「微小脳、賢い知能：ミツバチにおける視覚、航行と認識」 M.V. スリニバサン教授 (Mandyam V. Srinivasan), オーストラリア国立大学生物科学研究科視覚科学センター所長、オーストラリア科学アカデミーフェロー、ロンドン王立協会フェロー。

スリニバサン教授は自然界の簡単なシステムにおける視覚処理方法およびその機械的視覚、ロボットへの応用を研究している。詳しくは下記ウェブサイトで。

<http://biology.anu.edu.au/rsbsweb/profiles/srini.shtml>

その2 「私たちは勝てるのか？対ミツバチヘギイタダニ衛生行動をもつミツバチの系統育種がもたらすもの」 M. スピバック教授 (Marla Spivak), ミネソタ大学昆虫学部養蜂・社会性昆虫分野教授。

主要害敵である寄生ダニ、ミツバチヘギイタダニに対するミツバチの衛生行動と抵抗性との関係に注目して研究を進めている。また衛生行動の発現に関与する神経メカニズム、マルハナバチの社会生物学も主要テーマ。詳細は下記ウェブサイトで。

<http://www.extension.umn.edu/capacity/afe/honeybees/>

<http://www.entomology.umn.edu/Faculty/spivak/spivcv.htm>



発表要旨の募集

第8回アジア養蜂研究協会大会における口頭発表とポスター発表を募集する。会議のテーマは、「ハチミツを健康な人々のために」である。

募集分野は、以下の通りである。

- ・ミツバチ生物学
- ・ミツバチと環境
- ・ミツバチ生産物（アピセラピーを含む）
- ・ミツバチの害虫と病気
- ・養蜂技術
- ・養蜂植物と花粉媒介
- ・養蜂経済
- ・養蜂振興

英文要旨の送付先は、シドニー大学 Ben Oldroyd 教授 (boldroyd@bio.usyd.edu.au)。要旨送付締め切りは 2005 年 11 月 15 日。

※オールドロイド博士に送付する前に、下記 URL 上の要旨提出に関するガイドラインを確認のこと。http://www.beekeepingwestaus.asn.au/pdfs/formatting_your_abstract.doc

要旨が採用された場合、通知される。発表者は 2006 年 1 月 15 日までに登録と支払いをすれば早期割引登録料金が適用される（一般参加者の早期割引は 11 月末日まで）。

参加登録と各種料金

大会登録料（いずれも GST を含む）

早期割引登録（2005 年 11 月 30 日まで）

370 豪ドル（約 32,000 円）

一般登録（2005 年 12 月 1 日以後）

400 豪ドル（約 34,000 円）

学生登録 370 豪ドル

一日登録 3月21日, 23日, または 24日

140 豪ドル（約 12,000 円）/日

登録方法

大会参加者、発表者、同伴者は事前に参加登録と費用の支払いを済ませなければならない。ホームページで大会登録と公認ホテルの予約ができる。登録用紙の PDF をダウンロードして、クレジットカード情報 (Visa, MasterCard) と一緒に大会議事務局へファックスで送るか、参加

費用と一緒に郵送すること。オンライン登録し、同時に費用のクレジットカードによる決済もできる。登録ページは http://www.beekeepingwestaus.asn.au/registration_c.html。

参加費用として、登録料、オプション料金（ある場合は）、宿泊も申し込む場合は 1 泊分の予約料金を加える。空港への送迎、会場付近の駐車、ホテル・会場間の無料バスなどの希望も所定欄に記入すること。

入国ビザ

オーストラリア入国には事前にビザか ETAS (イータス=電子渡航許可) をうける必要がある。<http://www.australia.jp/destination/>

歓迎プログラム（料金はいずれも GST を含む）

大会をより楽しくする歓迎行事が用意されている。皆さんにご参加いただき、友人を増やす機会としたい。参加人数を掌握できるように、登録用紙には必ずチェックを入れて欲しい。

歓迎レセプション: 3月20日(月曜)の午後5~7時に大学クラブ晩餐会場にて。レセプション参加費は大会登録料に含まれる。登録者以外のゲストが参加の場合は 40 豪ドル。

大会夕食会: 3月23日(木曜)の午後7~11時に、フリーマントルの "Boardwalk the Riverfront Restaurant" で開かれる。3コースと飲み物付きディナーの参加費は別料金で、登録者・ゲストともに 50 豪ドル。

見学旅行

3月22日(水曜)午前8時に大学クラブ前を出発し、同日午後6時頃に帰着予定。見学旅行参加費は、登録料に含まれる。登録者以外のゲストも参加可で、費用は 55 豪ドル。

各ツアーの見学先は以下の通り：

ツアー①: ベルビューのギルフォイル養蜂器具生産工場、ギジェガナップのパーヴィー花粉加工施設、フレイ氏所有の最新式ハチミツ抽出トレーラー、花粉採集用蜂場、レイランド中央ハチミツ抽出プラント、巣箱移動用大型機器。

ツアー②: ウェスコビーハチミツ瓶詰め工場(ベイズウォーター)、フュースター中央ハチミツ抽出プラント(ミューシェイ)、蜂場、キャバ

シヤム野生動物公園、ベルビューのギルフォイル養蜂器具生産工場。

ツアー③：ケルムスコットのウエスト中央ハチミツ抽出プラント、キャニングヴェイルにあるサムナッツ花粉処理・包装工場、バルディビスのデイビーハチミツ抽出プラントと蜂場、ベッタビー見学（ロットネスト島で育種されたミツバチ）、ロックンガムのリドリーハチミツ・花粉加工施設。

ツアー④：キャバシヤム野生動物公園、ビーチナにあるレイランド中央ハチミツ抽出プラントとハチミツ製品販売店、トラックと巣箱ローダーの実演、ベッタビー見学（ロットネスト島で育種されたミツバチ）、イースト養蜂場。

ツアー⑤：ジンジンの重力発見センター、フュースター中央ハチミツ抽出プラント、屋外蜂場

ツアー⑥：カニングベイルのサマツ花粉加工プラント、ウェスコビーハチミツ瓶詰め工場（ベイズウォーター）、フュースター中央ハチミツ抽出プラント（ミュージェイ）、屋外蜂場、キャバシヤム野生動物公園。

宿泊設備

様々な宿泊先が、会議に参加する代表者のために確保されている。西オーストラリア大学クラブのすぐ近くにある多くのホテルが、好ましい価格を保証している。これらの部屋の予約は、会議事務局を通す必要がある。会議事務局は、2006年2月16日までに予約がされた場合、宿泊設備を保証する。この日より後の予約は、（部屋の利用が）可能かどうかによる。料金は1部屋1泊についてある。参加者は一泊目の部屋代を、予約保証金として払う必要がある。

大会参加者の便宜を図るために、会議場と以下の公認ホテルとを無料バスでつなぐ。この無料サービスを利用したい方は、登録用紙にその旨をお知らせいただきたい。

パーメリア・ヒルトン・パース Pamelia Hilton Perth
☆☆☆☆ パース市ミル・ストリート 14

市のショッピング・ビジネスの中心地、スワン川やキングズ・パークからほんの数分のところに位置するパーメリア・ヒルトン・パースは、くつろげるサービスと、都心の贅沢さを併せもつ。このホテルは空港から車で20分、市内の駅・バスターミナルから5分の位置にある。

スタンダードルーム 245 豪ドル

メディーナ・グラント・パース Medina Grand Perth
☆☆☆☆ パース市マウンツ・ベイ・ロード 33

メディーナ・グラント・パースは、市の中心商業地区の中核という素晴らしい位置が自慢である。メディーナ・グラント・パースは計138室の1寝室または2寝室のアパートメントとスタジオリーム、その他、レストラン、プール、体育館、温泉とサウナを有する。

プレミア1寝室アパートメント 193 豪ドル

クエスト・オン・レオラ Quest on Rheola ☆☆☆☆ 西パース市コーナーレオラ&トーマス・ストリート

パース市に隣接し、中心部まで数分の距離。スピアコやキングズパークにほど近い。

1寝室アパートメント 180 豪ドル

2寝室アパートメント 230 豪ドル

サリバズ・ホテル・パース Sullivans Hotel Perth
☆☆☆☆ パース市マウンツ・ベイ・ロード 166

都市とスワン川を見渡すサリバズ・ホテル・パースは、キングズ・パークとボタニック・ガーデン近くの申し分ない場所に位置する。都市の中心とフェリーターミナルは徒歩で僅か10分の距離にある。全ての客室は空調付き、多くの快適な設備が揃っている。このホテルは屋外プール、24時間営業の受付、インターネット環境と多くのゲストサービスを有する。

スタンダードルーム 115 豪ドル

トリニティ・カレッジ・パース Trinity College Perth (☆☆☆☆) クローリー市ハンデン・ロード 230

トリニティ・カレッジは、会議会場である西オーストラリア大学 (UWA) キャンパスの向かいに位置する。会場に近いというだけでなく、タクシー乗り場など公共交通機関がトリニティの正面出口のすぐ外で利用できるのも便利。各部屋は空調、勉強机とランプ、冷蔵庫、テレビ、コーヒーマーカーおよび ISD 電話を完備。

シングルルーム 83 豪ドル

ダブル/ツインルーム 98 豪ドル

大会スポンサーと展示会出展の募集

幅広い後援と展示の機会が得られる：

- ・ 大会に参加し、イベントや見学ツアー、講演者を支援していただきたい
- ・ あなたの最新の作品を展示し、
- ・ あなたの専門技術を実演して、
- ・ ネットワークを作り上げよう！

後援や出展の詳細については大会事務局

